

平成 29 年度 事業計画の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

平成 29 年度事業の実施方針

財団設立 30 周年記念事業を継続し、締めくくりながら、その成果を検証し、今後の社会情勢を見据えた新たな事業体系や、それを実施していくための組織の在り方について検討する。運営にかかる基本指針及び指定管理提案書等に沿いながら、下記の通り事業を実施する。

- ・既存事業の総括や新規事業の開拓を進めるとともに、各事業分野において「30 周年記念事業」を実施する。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた新規事業に取り組む。
- ・指定管理者制度や劇場法などの理念に基づき、各施設での賑わいづくりや、創造型事業のプロセスにおける市民協働・人材育成を積極的に進め、「次の 10 年」の基盤を作る。
- ・日常的な文化芸術鑑賞機会や学習機会の充実に加え、2 年度目となる「せんだい 3. 1 1 メモリアル交流館」の運営を含め、震災の記憶を後世に残す事業や被災者・地域に寄り添う事業を継続する。
- ・交流人口の拡大に向け、国内外の他地域との連携事業に力を注ぎ、東北を牽引する都市・仙台市の文化財団として機能の強化を図る。
- ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金の拡充により事業体系を充実させるとともに、職員の意識、能力の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営を継続する。

平成 29 年度事業の概要（経費／単位千円）

（1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全・快適で使い易い文化施設の提供をはじめとし、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行う。

併せて、当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努める。

ア. 施設の貸出・維持管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（351,031）/No. 148
- ・泉文化創造センター 管理運営（131,035）/No. 149 ※(株)東北共立、(株)石井ビル管理とのグループ
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（67,291）/No. 100
- ・富沢遺跡保存館 管理運営（84,938）/No. 110
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（41,772）/No. 125

- ・仙台文学館 管理運営 (185, 750) /No. 139
- ・せんだいメディアテーク 管理運営 (605, 378) /No. 150
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 管理運営 (26, 976) /No. 83
- ・せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営 (55, 050) /No. 84

イ. 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業 (20, 903) /No. 26
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業 (9, 030) /No. 65

ウ. ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・イズミティ 21 市民協働ロビーイベント (511) /No. 37①
- ・仙台国際音楽コンクールボランティア運営 (2, 101) /No. 79
- ・各ミュージアムボランティア運営 /No. 116 ほか
- ・各ミュージアム 教育機関や地域との連携事業 /学校・地域連携促進事業 /No. 91 ほか

エ. 人材育成

- ・(30周年記念事業) せんだい・アート・ノード・プロジェクト LECTURES/レクチュアズ (4, 700) /No. 21
- ・(30周年記念事業) 東京芸術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台 (1, 565) /No. 20
- ・舞台スタッフ☆ラボ (1, 623) /No. 54
- ・からだとまなぶ・身体表現ワークショップ (848) /No. 56
- ・せんだい短編戯曲賞 (1, 854) /No. 57
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (24, 239) /No. 82

【東京芸術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台】11月(30周年記念事業)

東京芸術大学と地域との協働による逸材発掘プロジェクト。当年度はピアノ部門、ヴァイオリン部門、木管楽器部門の3部門を開催。講師となる藝大音楽学部教員や藝大生による無料コンサートも併せて実施。

【せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営】通年

仙台市の東日本大震災メモリアル施設として地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した当施設を、平成28年4月より仙台市まちづくり政策局からの委託事業として管理運営開始。開館以来国内外からの視察も含め、入館者は8万人を超える。管理運営2年目となる当年度は、交流スペース事業等を実施しながらさらに地域との交流を深める。

【東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業】通年

2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、前年度に仙台市との共催で公募した、地域の文化芸術分野におけるさまざまな資源による「仙台市文化プログラム」の企画提案の中から、当年度は実際に実施する提案を選定し、複数年をかけ事業として推進していく。この機会をとらえ、仙台市に新しい文化的成果を生み出すこと、そしてその取り組みが一過性にとどまることなく、オリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー(文化遺産)」として、末永く継承されていくことを目指す。

(2) 普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・サポーターやスポンサーの裾野を広げる。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集・発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図る。

ア. 鑑賞公演

- ・(30周年記念事業) ロシア国立ボリショイ・バレエ「白鳥の湖」仙台公演 (28,450) /No. 2
- ・(30周年記念事業) 舞台「ある芸術家の生涯」(3,654) /No. 7
- ・(30周年記念事業) 奈良岡朋子 一人芝居「黒い雨」(2,083) /No. 4
- ・宝塚歌劇雪組仙台公演 (27,392) /No. 28
- ・仙台クラシックフェスティバル 2017 (80,362) /No. 29
- ・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】(5,721) /No. 34、53、58
- ・新春いずみ寄席 (3,193) /No. 33
- ・ライブ文学館 (1,420) /No. 49
- ・劇場・音楽堂等活性化事業【オーケストラ・スタンダード、小中学校オーケストラ鑑賞会、こまつ座公演他】(101,306) /No. 35

イ. 展示事業

- ・(30周年記念事業) 夏目漱石生誕 150 周年記念「夏目漱石とその周辺の人びと」(仮) (305) / No. 13
- ・歴史民俗資料館 特別展「Winter Life in Sendai～仙台の冬の暮らし」(1,739) /No. 104
- ・富沢遺跡保存館 特別企画展「森と人の考古学」(仮) (2,218) /No. 113
- ・仙台文学館 特別展「イラストレーター 安西水丸展」、「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」(7,706) /No. 141、143
- ・歴史民俗資料館 企画展 (1,755) /No. 102、103
- ・富沢遺跡保存館 企画展 (211) /No. 112, 114, 115
- ・縄文の森広場 コーナー展示 (49) /No. 127
- ・仙台文学館 企画展 (2,397) /No. 144

ウ. 講座・ワークショップ等

- ・各ミュージアムでの講座・ゼミナール・ワークショップ /No. 89、105、116 ほか
- ・ホール見学会 (イズミティ 21) /No. 37②

エ. アウトリーチ

- ・学校・地域アウトリーチ事業 (1,500) /No. 67
- ・芸術家派遣事業 (0) /No. 66 ※実行委員会に加盟し事務局を運営

オ. 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5,120) /No. 72
- ・事業団友の会運営 (3,160) /No. 73

【ロシア国立ボリショイ・バレエ「白鳥の湖」仙台公演】 6/16 (30周年記念事業)

27年ぶりの来仙となるバレエの殿堂ボリショイ・バレエ団の公演。三大バレエの1つ、「白鳥の湖」を上演。河北新報社と共催。

【宝塚歌劇雪組仙台公演】 9/2～3

仙台市民はもとより広域からの来場者で賑わう宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演。2日間4ステージで、第1部ミュージカル。第2部レビューを上演。

【仙台クラシックフェスティバル 2017】 9/29～10/1

仙台の秋の風物詩として定着した仙台クラシックフェスティバル。12回目を迎える今回は、仙台国際音楽コンクール入賞者と仙台フィルゆかりの出演者の共演など、事業団ならではの企画を盛り込んで開催。地下鉄駅構内や街なかでのコンサート、出演者が病院などに出向いて行うコンサートなども同時に開催し、仙台市内にクラシック音楽が溢れるフェスティバルとする。

【夏目漱石生誕 150 周年記念「夏目漱石とその周辺の人びと (仮)」】 11/3～14 (30周年記念事業)

夏目漱石生誕 150 年を記念し、漱石とその周辺の人々の紹介と関連資料を展示。漱石文庫を所蔵する東北大学附属図書館と共催。

(3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していくと共に、長期的継続も視野に入れながら、作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信していく。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育てていくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を推進する。

ア. 顕彰制度・コンクール等

- ・第7回仙台国際音楽コンクール運営事業 (47, 479) /No. 75～81
- ・(再掲) せんだい短編戯曲賞 /No. 57
- ・ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への集い (464) /No. 88
- ・土井晩翠顕彰会の支援 (晩翠わかば賞・晩翠あおば賞) (0) /No. 94

イ. プロデュース公演・企画公演・展示事業

- ・(30周年記念事業) タイ王立舞踊団招聘公演 (8, 838) / No. 1
- ・(30周年記念事業) オリジナルミュージカル「仙台ねこ」(15, 385) /No. 5
- ・(30周年記念事業) 芝能とニッポン文化フェスティバル (6, 015) /No. 8
- ・(30周年記念事業) 戯曲賞関連上演 (3, 050) /No. 3
- ・(30周年記念事業) あつまれ! 仙台の伝統芸能 (3, 500) /No. 14
- ・(30周年記念事業) ミュージウム・シアター「狩人登場」(1, 200) /No. 12
- ・(30周年記念事業) 縄文祭復元事業 (1, 670) /No. 15
- ・(再掲) 仙台クラシックフェスティバル 2017 /No. 29
- ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト (30, 000) /No. 96
- ・メディアテーク「調査と表明 (1) (2)」(19, 610) /No. 97、98
- ・(再掲) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業

ウ. グッズ製作・出版

- ・(30周年記念事業) 『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版&記念フォーラム (3, 100) /No. 22
- ・(30周年記念事業) RE:プロジェクト記録集出版事業 (2, 150) / No. 23
- ・ミュージウムグッズ開発・販売 (1, 452) /No. 52

【タイ王立舞踊団招聘公演】5/26～28 (30周年記念事業)

日・タイ修好130周年、仙台市とタイの観光交流協定締結10周年を記念し、タイから王立舞踊団を招聘。公演の他、様々な文化交流事業を同時開催。

【オリジナルミュージカル「仙台ねこ」】8/19～20 (30周年記念事業)

「仙台」と「ねこ」をテーマに創作したオリジナルミュージカル。公募による100人を超える市民の出演と、募集した「ねこ」に関するエピソードを台本に採用し、平成28年度から1年間のレッスンを経ての舞台。作・演出・振付：梶賀千鶴子 音楽：日高哲英

【芝能とニッポン文化フェスティバル】9/16 (30周年記念事業)

卸町公園を舞台に本格的な能楽の野外公演と日本の伝統的な音楽の公演を実施。古典芸能および伝統芸能の素晴らしさを伝える。

【やなぎみわステージトレーラープロジェクト「日輪の翼」仙台公演】9/23 (30周年記念事業)

現代美術家やなぎみわによる演劇プロジェクト。雄勝法印神楽との共演などを通して、東北の復興を目指す。

【あつまれ! 仙台の伝統芸能】11/3 (30周年記念事業)

毎年恒例の「れきみん秋祭り」のうちの一日に、日頃は仙台市各地域でしか見ることのできない伝統芸能を集め、野外舞台で披露するお祭りとして開催。

【RE:プロジェクト 記録集出版事業】(30周年記念事業)

平成23年度から27年度まで展開し、成果を得た「RE:プロジェクト」の5か年分の記録集を出版する。

【せんだい・アート・ノード・プロジェクト】通年

優れた現代アートの持つ発見性、吸引力、発信力を活用しながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開する。当年度は、3か年スパンの1期の2年度として、アーティストによるアーティスト・イン・レジデンスや地域における拠点づくりなどの事業と、これらに伴う情報発信やアーカイブを行う。

【『コミュニティアーカイブのつくりかた』出版&記念フォーラム】(30周年記念事業)

震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するために書籍を出版する。併せて出版記念フォーラムを開催。

(4) 調査・研究/資料収集・保管/基盤整備等

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行う。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続する。

ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告(704)/No.108
- ・考古学調査研究・報告の刊行(190)/No.117
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査(345)/No.120

イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集(1,919)/No.107
- ・文学資料収集・保管(3,360)/No.146
- ・メディアテークライブラリー運営等(9,621)/No.151
- ・地域文化アーカイブ(1,701)/No.98②
- ・せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営(14,950)/No.86

ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No.74

公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成29年度 事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位;千円)

(1)芸術文化振興事業

1)30周年記念事業

当事業団の設立30周年を起点に、これまでの成果の総括・発信、外部パートナー人材や外部資金の拡充をテーマに、①事業推進力 ②市民協働力 ③サービス力を強化していくための記念事業

①公演

1	日・タイ修好130周年 タイ王立舞踊団招聘公演・関連事業	5/26～28	日立システムズホール仙台他	8,838	5,688	入場料 1,688 助成金 4,000
	日・タイ修好130周年、仙台市とタイの観光交流協定締結10周年を記念し、タイから王立舞踊団を招聘。公演をはじめ様々な文化交流事業を開催する。					
2	ロシア国立ポリショイ・バレエ「白鳥の湖」仙台公演	6/16	イズミティ21	28,450	27,499	入場料 26,459 その他 1,040
	27年ぶりの来仙となるバレエの殿堂ポリショイ・バレエ団の公演。世界最高峰の優れた公演を廉価で提供する。演目は三大バレエの一つ、「白鳥の湖」。河北新報社と共催。					
3	せんだい短編戯曲賞関連事業 チェルフィツチュ「部屋に流れる時間の旅」仙台公演	7/1～2	宮城野区文化センター	3,050	1,050	入場料 1,050
	国内外で評価が高い劇作家・岡田利規が脚本と演出を務める演劇カンパニー「チェルフィツチュ」の仙台公演。世界の演劇祭に招聘されている最新作。					入場者:のべ280人
4	奈良岡朋子 一人芝居「黒い雨」	8/9	イズミティ21	2,083	1,020	入場料 1,020
	新潟市民芸術文化会館りゅうとびあ「物語の女たちシリーズ」の第3弾として制作され、2013年8月初演以来、舞台生活60年を超える奈良岡のライフワークとなった作品。西日本で5か所上演予定だが、東日本では唯一仙台で開催。定評のある演劇作品を求める市民のニーズに応える。					
5	劇都仙台2017 オリジナルミュージカル「仙台ねこ」 劇場・音楽堂等活性化事業(青年文化センター文化庁補助事業)	8/19～20	日立システムズホール仙台	15,385	12,245	入場料等 3,610 市負担金 2,135 文化庁補助 6,500
	「仙台」と「ねこ」をテーマとした創作ミュージカル。多くの市民の出演と、募集した「ねこ」に関するエピソードを台本に採用し、28年度から1年間のレッスンを経て約120分の新たな舞台作品を創り上げる。仙台にゆかりのあるアーティストやスタッフを起用し、音楽は生演奏とする。 作・演出・振付:梶賀千鶴子 音楽:日高哲英					
6	(仮称)コープス「ひつじ」&子どものための舞台芸術見本市	8月	10-BOX	3,600	0	
	演劇に初めて出会う市民へのアプローチとして、ユニークな劇団を海外から招聘し、学校の夏休みの時期に親子向け、子ども向けのフェスティバルを実施するもの。					入場者:のべ250人
7	舞台「ある芸術家の生涯」	9/10	日立システムズホール仙台	3,564	2,308	入場料等 1,208 助成金 1,100
	平成28年1月に上田市交流文化芸術センターで上演された、演劇とクラシック音楽のコラボレーション作品「ロマン派症候群」をベースとし、新たな要素を加えて再構築する舞台。作・演出を南河内万歳一座の内藤裕敬氏、音楽監修とピアノ演奏を仲道郁代氏に依頼。連携事業として上田市を皮切りに仙台、大津、豊岡、雲南、北九州の6箇所をツアーで回る。					
8	芝能とニッポン文化フェスティバル	9/16	卸町公園(能-BOX)	6,015	1,788	入場料 788 助成金 1,000
	古典芸能及び伝統芸能の素晴らしさを伝えるため、卸町公園を舞台に本格的な能楽の野外公演と日本の伝統的な音楽の公演を実施する。					入場者:のべ300人
9	やなぎみわステージトレーラープロジェクト 「日輪の翼」仙台公演	9/23	仙台市内	10,032	6,332	入場料 1,332 助成金 5,000
	現代美術家やなぎみわが2016年に開始した演劇プロジェクト「日輪の翼」。今回の公演では、雄勝法印神楽との共演などを通して、東北の復興を示す。					入場者:のべ300人
10	渡辺源四郎商店「コーラないんですけど」仙台公演 OROSHIMACHI ART MARCHE	10/5～9	10-BOX	1,560	360	入場料 360
	せんだい短編戯曲賞の最終候補でもある劇作家・工藤千夏が所属する渡辺源四郎商店。青森を拠点にしながら国内で高い評価がある。卸町アートマルシェ(仮称)との共同開催。					入場者:のべ150人

11	イズミティ21スタインウェイピアノ利用促進のためのコンサート	10月以降	イズミティ21	520	0	
<p>平成28年6月末に小ホールに配備されたスタインウェイピアノの利用促進のためコンサートの第2弾。ピアノが配備されたことを周知し、小ホールの新しい魅力としてアピールする。ピアノソロや声楽とのアンサンブルなど多様なプログラムで構成し、小ホールという手頃なキャパシティ(定員403名)でスタインウェイピアノを使用したクラシック系コンサートの実施例として提案する。事前申込制で入場無料で実施。平成28年12月22日に実施して好評を博した「スタインウェイがやってきた。」記念ピアノコンサートの趣旨を継承し、アンコール公演的な性格を持たせる。</p>						入場者: 400人
②ミュージアム等活性化事業						
12	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～3月	富沢遺跡保存館	1,200	0	
<p>市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動を、館外も含めてより多面的に展開していくための衣装等の制作を行うとともに、発表機会や発表媒体を拡充する。</p>						
13	夏目漱石生誕150年記念企画展「夏目漱石とその周辺の人びと(仮)」	11/3～14	メディアテーク	305	0	
<p>平成29年が夏目漱石生誕150年に当たることから、漱石文庫を所蔵する東北大学附属図書館と共同で夏目漱石展を開催する。ギャラリーa2を仙台文学館が担当するスペースとし、漱石とその周辺の人々の紹介と関連資料を展示する。東北大学附属図書館と共催。</p>						
14	「あつまれ！ 仙台の伝統芸能」	11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	3,500	0	
<p>毎年恒例開催のれきみん秋祭りの伝統芸能競演を拡大し、現代の文化芸術の振興と郷土の歴史の継承をさらに支援する内容で実施。仙台を中心に地域の芸術文化を支え、魅力ある市民の文化創造と市民生活を支える当財団のビジョンを示す場とする。野外の舞台やひろば等での上演と館内展示を結んで、動的なイベントとする。</p>						参加者: 2,000人
15	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,670		
<p>縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、まつりの復元創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民に公開する。当年度は前年度に引き続き、これまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベントを行う。館と地域団体・学校などと連携し、全国に発信する当館の独自事業と位置づける。</p>						
16	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	1,000		
<p>より身近に縄文文化をとらえてもらえるよう、土器の3D計測を行い型をとり、それを活用した当館独自のメニュー開発を行う。当年度は、その型を用いて事業団30周年事業として2～3時間のイベントを実施する。また、イベントの成果に基づき、メニューに合う型の増産・改良などを行う。さらに、学校との結びつきを強めるために、教員向けに普及活動を行い、30年度以降の学校での利活用に向けての準備を進める。</p>						
17	野外展示「縄文の森」多目的活用「森でみつけ「じょうもん」」	通年	縄文の森広場	313		
<p>野外展示の広場をより有効に活用するための取り組みを行う。太白山周辺の自然を活用しながら、縄文時代の自然環境について学ぶ機会として、専門家の指導のもと、植物の観察会や採取を行い、広場に補植するために生育を行う。より地域住民にとって親しみのある広場となることを目的とする。地域施設である太白山自然観察センターや青葉の森職員と連携して実施する。</p>						
18	交流スペース喫茶事業	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	300	300	その他 300
<p>メモリアル交流館が、仙台東部地域の玄関口として、当該エリアを回遊する拠点として機能強化することを目的に、地域住民や来館者にとって、当館が安心して楽しく滞在できる場所として認知してもらうことため、1F交流スペースにおいて飲食物の販売等を行う。</p>						
19	「手でつくる」Labo	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	520	60	受講料 60
<p>仙台東部沿岸地域を対象に、社会状況の変化によって失われてしまうかもしれない手仕事について、学びと実践とおして発信を行う。また、技術を継承していくための仕組みづくり、多角的な視点を伴った体制の構築や記録化にも取り組む。</p>						
③育成・普及事業						
20	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクトin仙台	11月	日立システムズホール仙台	1,565	0	
<p>東京藝術大学と地域との協働に基づく逸材発掘プロジェクト。当年度は、ピアノ部門、ヴァイオリン部門、木管楽器部門の3部門を開催予定(受講料無料・事前審査あり、見学・聴講自由)。東京藝術大学音楽学部の教員が仙台に赴き、地域で音楽に取り組む子どもたちを対象に公開型レッスンを実施。子どもたちの可能性を引き出し伸ばす方策を探るとともに、子どもたちが相互に刺激し学び合う環境づくりを行う。また、聴講する指導者の音楽指導力の強化に寄与し、市民が演奏技術を身近に感じることで音楽鑑賞力を深める機会とする。市民の関心を高めるために講師や藝大生による無料コンサートも併せて実施する。</p>						受講者: 74名 入場者: 600人

21	せんだい・アート・ノード・プロジェクト LECTURES/レクチャーズ	通年	メディアテーク	4,700	0	
市内各所にて、市民の誰もが参加できるアートに関するトークや、高校生などに向けた鷺田清一館長やアーティストによる講座等を開催し、現代アートに関する市民の理解醸成を目指す。仙台における芸術文化の魅力のさらなる向上を目指し、せんだいメディアテークを核に現代アートの振興に取り組む。						
22	『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版 & 記念フォーラム	通年	メディアテーク	3,100	0	
震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、地域課題を様々な主体の参加を得ながら市民一人ひとりの目線でアーカイブする独自の取り組みとして、多くの共感と高い評価を得てきた。この活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するために書籍を出版する。また、出版を記念したフォーラムを開催する。						
23	RE:プロジェクト 記録集出版事業	通年	—	2,150	250	刊行物販売 250
5か年にわたり継続した「RE:プロジェクト」(平成23～27年度)の、これまでの成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)をまとめて掲載するとともに、外部による評価の視点も入れながら記録集を出版する。						
④その他						
24	浮世絵ねこの世界展	4/28～6/4	TFUギャラリー ミニ モリ	2,000	0	
平成28年春から静岡の駿府博物館を筆頭に全国各地を回る巡回展。歌川国芳、広重、国貞、その他、豊国、英泉など、江戸・明治期に活躍した浮世絵師たちが様々な個性で描き出した「ねこの世界」を展示。8月に上演の「オリジナルミュージカル仙台ねこ」と相乗効果を期待。河北新報社と共催。						
25	周年共通経費	通年	—	3,464	0	
財団設立以来の事業アーカイブの構築・整備等にかかる経費や調査費、臨時的人件費など。						

2) 経常事業

① 市民文化事業への支援事業

26	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,903	20,024	市補助金 20,024
市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりよ』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」は助成審査会を経て助成額を決定する事業。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。						
27	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。						

② 公演事業

28	宝塚歌劇 雪組 全国ツアー仙台公演	9/2～3	イズミティ21	27,392	42,392	入場料 41,600 広告料 350 その他 442
仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル、第2部レビューを上演する。						
29	仙台クラシックフェスティバル2017	9/29～10/1	日立システムズホール仙台 他	80,362	75,662	市負担金 23,300 入場料 43,341 協賛金他 9,021
2006年(平成18年)に事業団創立20周年記念事業として立ち上げ、12回目を迎える今回は、コンクール入賞者と仙台フィルゆかりの出演者の共演など、仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込むとともに、仙台で音楽を学ぶ学生や子どもたちが出演する公演を設けるなど、仙台で開催する音楽祭ならではの事業展開とする。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で87の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのほしご鑑賞を推奨する。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサート、病院などに出演者が出向き演奏する「出張せんくら」を設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。						
30	もりのみやこのふれあいコンサート	12/8	イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場者数が増えている。また、平成26年度から会場をイズミティ21大ホールとし、より多くの車椅子の方の受入れを可能としている。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。						
31	デンハーグピアノ五重奏団クリスマスコンサート	12/22	宮城野区文化センター	1,768	768	入場料 768
世界的にも珍しい古楽器・フォルテピアノと、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの楽器編成によるピアノ五重奏団のコンサート。コアなクラシックファンに向けた鑑賞機会とする。						

32	タンゴ・デル・アルマ～魂のタンゴ仙台公演	10/21	イズミティ21	3,406	2,328	入場料 2,328
ジブシーバイオリニストの第一人者 古館由佳子と、オペラ「カルメン」からタンゴ、シャンソンまでレパートリーとする小島りち子による公演優れたエンターテインメントの一つとしてのタンゴの演奏とダンスをくみあわせ、廉価で提供する。						
33	新春いざみ寄席	1/8	イズミティ21	3,193	2,888	入場料 2,888
新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。						入場者:のべ790人
34	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,571	0	
放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、文楽公演(負担金各500千円)と小山実稚恵「音の旅」(負担金無し、年2回)に加え、当年度はTAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ(負担金なし)、「東芝グランドコンサート2018」(仙台放送、負担金無し)他を共催する。						

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

35	劇場・音楽堂等活性化事業 (青年文化センター文化庁補助事業) 経常実施分	通年	日立システムズホール仙台他	101,306	99,023	入場料等 11,793 市負担金 43,265 文化庁補助 43,497 その他 468
<p>クラシック専用ホールを擁し地域の音楽文化を支える日立システムズホール仙台からの発信事業。文化庁の補助を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。</p> <p>①《名曲のちから》「オーケストラ・スタンダード 全4回」(6月～2月 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度は、主催公演での来場者アンケートによる要望を折り返みながら、各回ごと全曲同一作曲家による「名曲」プログラムで実施する。</p> <p>②青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7月、10月 コンサートホール):市内小中学校約220校を音楽専用ホールに招く本格的なオーケストラ・コンサートの鑑賞会(全14回)。</p> <p>③おとなのためのクラシック教室&入門コンサート(8月 コンサートホール):「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」のおとな版。クラシック音楽初心者に向けての、平日昼間開催・解説付きの本格的なオーケストラ・コンサート。</p> <p>④劇都仙台2017 県域子どもミュージカル招聘公演(未定 交流ホール):28年度に実施した「AZ9ジュニアアクトーズ」に続き、東日本大震災から6年が経過する当年度、東北や県域の子どもたちを仙台に招き、励ましあい交流できる劇場発の演劇プログラムとして以下から1演目を選択予定。 [候補団体A]宮城県塩釜市市民ミュージカル [候補団体B]宮城県七ヶ浜町 七ヶ浜国際村パフォーマンスカンパニーミュージカルグループNaNa5931</p> <p>⑤劇都仙台2017 こまつ座公演「円生と志ん生」(10月8日 シアターホール):仙台文学館初代館長井上ひさし作品のシリーズ上演。「井上ひさし作品」という現代演劇のスタンダードを、井上戯曲の継承者であるこまつ座により上演することで、井上文学と演劇との関係性を改めて紹介し、作家ゆかりの地、仙台に伝えていくことを目的として開催。仙台初上演。</p> <p>⑥劇都仙台2017 演劇ワークショップ&プロデュース公演(11月～2月 練習室4、交流ホール):「劇都仙台」としてこれまでに培ってきた優秀な俳優・スタッフと一流の演出家とともに先鋭的なクオリティの高い舞台作品創造をめざす。演出家には、台詞だけに頼らず舞踊、映像、照明などの総合演出に定評がある新進気鋭の在京劇団「世田谷シルク」の代表・堀川炎(ほのお)氏を迎え、堀川氏の既存の脚本で、新たな演出によりプロデュース公演を行う。舞台出演経験のある俳優を中心に参加者を公募し、ワークショップを行う。堀川氏をはじめ世田谷シルクの劇団員が数名滞在し、地元の演劇関係者も参加・交流しながら舞台づくりを進める。 ・上演予定作品:「渡り鳥の信号待ち」(世田谷区芸術アワード飛翔受賞作品) ・舞台スタッフ:10-BOXで毎年実施している舞台技術養成講座「舞台スタッフ・ラボ」の既受講者</p> <p>⑦インドネシアの伝統芸能「ワヤン・クリツ」特別招聘公演(未定 交流ホール):芸術に関する国際文化交流・異文化理解推進し、交流の場としての機能強化を図るため、今後一層の交流が期待されるアジア・太平洋地域との文化交流事業を実施する。 インドネシアの伝統芸能「ワヤン・クリツ」(影絵人形芝居)の公演。政府派遣特別グループによる上演。 演目は「ラーマヤナ」、「マハーバーラタ」など。 現地語での公演に、日本語字幕とパンフレットを用意する。</p>						
36	青年文化センター活性化事業等	通年	日立システムズホール仙台	5,314	714	参加料等 464 コピー料収入 250
<p>ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。</p> <p>①パフォーマンス広場活用プロジェクト(7月):当館の特徴的施設である自由空間を利用しているアーティストにスポットをあて、ジャンル複合イベントを実施し、同広場の創造拠点機能を発信するとともに利用者間の新たな関係構築を図る。</p> <p>②こどもの夢ひろば「ボレロ」(7月):仙台市出身の著名ピアニスト小山実稚恵氏による企画とタイアップし、子ども向けのコンサートの他、多ジャンルにわたる体験型コンテンツを、全館を総合的に活用して実施する。</p> <p>③インド舞踊公演(9月):インド政府が派遣する優れた舞踊を紹介し、文化の交流及び相互理解の推進を図る。</p> <p>④伝統・歴史資源活用事業 公家企画(10月):伝統的な装束・服飾などの歴史的資源を活用し、独自の実演芸術の創造を通じて、歴史や文化に親しむ機会を提供する。当年度は政宗公生誕450年記念事業と位置づけ、機運の高まりに寄与する。</p> <p>⑤日立システムズホール アートBOX(通年):当財団が有する人材やコンテンツを活用して、参加・体験型など手法を工夫しながら時宜にかなった講座を行う。</p> <p>⑥諸室・フリースペース活用事業(通年):施設の利用率向上を図るための料理教室や茶室のモデル利用事業、フリースペース活用のための展示事業を実施する。</p> <p>⑦地域連携事業(通年):旭丘小学校の課外授業である「旭丘丘わんぱく森がっこ」をはじめ、旭丘丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を深める。当年度は施設の美化推進を試行し、施設のイメージアップにつなげる。</p> <p>⑧事業等調査事業(通年):次年度事業に向けた調査を実施する。</p> <p>⑨コピーサービス事業(通年):施設利用者用のサービスを継続して実施する。</p>						

⑨は収益事業

37	泉文化創造センター 活性化事業	通年	イズミティ21	923	10	販売手数料 10
<p>ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。</p> <p>①市民協働ロビーイベント(年3回):施設のカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。また、当館のホールを利用してイベントを実施する団体のプレイベント(事前PRイベント)として、施設利用者への広報支援策としても活用する。</p> <p>②ホール見学会(1日2回公演):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして開催し、親子で楽しみながら舞台上に興味を持ってもらう内容とする。指定管理者グループ構成団体の(株)東北共立の舞台職員も企画段階から参画し、協働で運営する。</p> <p>③ピアノ弾き込みボランティア(年3回程度):大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。</p> <p>④市民ギャラリー・エントランスロビー展示(市民ギャラリー/1回1週間程度、ロビー/通年):地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示を行う。市民ギャラリーの利用促進のためのモデル事業となるよう、比較的簡易な設営で鑑賞者にアピールできるような工夫をする。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を実施する。</p> <p>⑤泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売する。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて一般販売ならびに友の会先行販売に関して入場券を販売する。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱う。</p>						①は収益事業

④ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。

38	猿舞座のさるまわし	6/12	榴岡公園 歴史民俗資料館	30	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の8回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気の中で伝統芸に親しむ。						参加者:800人
39	朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」	8/6	歴史民俗資料館	30	0	
朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」の4回目の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝える。						参加者:50人
40	れきみん秋祭り	10/22、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,778	48	刊行物販売 48
歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の11回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。11/3分は財団設立30周年事業とタイアップして実施。						参加者:7,000人
41	朗読公演 「語りつぐ、あの日の記憶」	3/4	歴史民俗資料館	30	0	
朗読「リラの会」により、2011年3月11日の体験記『東日本大震災の体験文集Ⅱ』をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演する。						参加者:50人
42	体験教室「親子でつくろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館他	590	150	古代米販売 120 参加料 30
富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行う。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とする。また、近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指す。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行う。						
43	ミュージアムフォトコンテスト 「氷河期の森・縄文の森の風景2017」	5月～3月	富沢遺跡保存館他	350	0	
都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について楽しみながら知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、コンテストを行う。作品は広く一般から募集する。						
44	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～3月	富沢遺跡保存館	1,050	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動を、館外も含めてより多面的に展開し、発表機会や発表媒体を拡充する。ここでは経常実施分を掲載。						
45	森を育てる2017	6月～11月	富沢遺跡保存館	240	0	
富沢遺跡保存館の野外展示「氷河期の森」は、環境復元(展示)と環境回復(保全)を核として館の普及啓発等に活用されてきた。これに、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を加え、環境活動を将来にわたってどう行っていくか、参加者が主体的・計画的に考える基礎づくりの活動を行う。持続可能な地域づくりを担う人材育成においては、多様性、相互性、有限性、公平性、連帯性、責任性などを学ぶ機会を提供し、あわせて野外展示である復元森の生育を促すものとする。						

46	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	11月～3月	富沢遺跡保存館	540	0	
地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とする。当年度も学生へ参画を呼びかけ、「氷河期の森」の活用を図る。						
47	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	200	0	
平成28年度は、「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントをお菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて実施した。また、近隣の上野山児童館と連携して地域の子もたちに縄文文化を身近にとらえてもらうイベントを実施した。当年度は、前年度に引き続き、こうした楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを、継続して行う。						
48	仙台文学館まつり	8月	仙台文学館	270	20	その他 20
平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をする。						
49	ライブ文学館	冬期	イズミティ21	1,420	1,090	入場料1,090
ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成する催し。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成する。 「加賀美幸子の源氏物語」:NHK元アナウンサーで、現在も古典文学に関する番組やカルチャースクールで講師をつとめる加賀美幸子による源氏物語の原文朗読と解説に、音楽演奏を加え、平安女流文学の世界を味わう。						
50	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	1,000	0	
①環境整備事業:子育て世代の親子連れや児童、生徒の利用促進に向け、館内の様々な空間を効果的かつ魅力的に活用できるような「場」づくりを行う。図書館と連携を図りながら、親子で遊べる安全な設備を考案し設置する。 ②シネバトル メディアによる2階映像音響ライブラリー活性化事業:2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre (我らがライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育む。年4回開催。						
51	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	100	0	
せんだいメディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承する人材を育てる。また、館内で、活版の道具類のミニ展示やワークショップを開催し、広く普及を図る。						
52	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,452	1,797	刊行物販売 1,549 その他 248
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出307千円、収入500千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出90千円、収入114千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と開発。(支出185千円、収入185千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館者の記念などとして人気の高いしおり・クリアファイルなどを継続販売する他、夏のこども文学館の絵本作家・よたかずひこ氏の関連グッズを販売し来館者のニーズに応える。(支出170千円、収入250千円) ⑤メディアテークグッズ:カネイリと共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行う。(支出200千円、収入248千円) ⑥せんだい3.11メモリアル交流館グッズ:施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの調査・開発、販売を行う。(支出500千円、収入500千円)						
収益事業 *収支は損益ベース						
⑤劇都仙台2017事業						
都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施する。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など						
53	市民能楽講座	6/10・7/1	能-BOX 日立システムズホール仙台	3,990	3,990	市負担金 2,350 入場料 1,640
「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、金春流能公演(7/1)を日立システムズホール仙台(青年文化センター)シアターホールで、講座は(6/10)能-BOXで実施。 入場者:600人						
54	舞台スタッフ☆ラボ	1月～2月	演劇工房10-BOX他	1,623	1,623	市補助金 808 受講料 165 助成金他 650
稽古場でありアトリエの機能を持つ10-BOXから、劇場のある宮城野文化センターへと会場をつなぐ最新版舞台技術要請講座。舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コースなど、新規部門の開設や、新たな組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら実施。だれもが舞台や表現の楽しさと奥深さに触れる機会とし、更なる市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。 対象者:70人 観客:100人						

55	10-BOX鑑賞型プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	5,670	3,270	市補助金 3,270
	<p>①戯曲賞大賞受賞作品リーディング公演:優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演を大賞受賞式に併せて実施。</p> <p>②杜の都の演劇祭:市内の劇場や飲食店等の劇場空間を活用して主催・共催・協力等の演劇公演を行い、鑑賞層の拡大(創客)を図る。</p> <p>③県外の良質な劇団公演受け入れ:鑑賞の機会を提供する。</p>					対象者:のべ500人
56	からだとまなぶ-身体表現ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX	848	848	市補助金 800 受講料 48
	東北・仙台を拠点に活躍する表現者または団体と協働し、パフォーミング・アーツ(舞台芸術)との出会いと学びの場を創出。社会的マイノリティを視野に舞台芸術に触れる機会のなかった人を主な対象とするものや、舞台芸術もしくは他ジャンルも含めた表現者を主な対象とするプログラム等、仙台的文化的土壌をより肥沃にする耕しを、この地の表現者とともに考え、実施する。					対象者:30人 一般公開来場者: のべ200人
57	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX 他	1,854	1,854	市補助金 1,854
	演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第5回せんだい短編戯曲賞」を開催。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞を選考する。最終候補作品(10作品程度)を冊子化し、併せて次年度の募集を行う。					
58	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	731	731	市補助金 656 受講料 75
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中辻晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図ってゆく。					対象者:70人
59	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,330	252	市補助金 101 刊行物販売 151
	劇団仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売などを行う。					
60	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BBOX他	500	150	県負担金 150
	教育や福祉現場での課題を、演劇のもつ力(コミュニケーション能力を育む力、舞台技術等)を生かし、個々の状況にあわせて、解決に向けて協働する。教育現場での演劇の次代の担い手に重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」、とうほく学生演劇祭実行委員会による「第4回とうほく学生演劇祭」を共催で実施する。					対象者:200人
61	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX 日立システムズホール仙台	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。					対象者:70人
62	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行う。					対象者:10人
63	スタ☆ラボネットワーク	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成20年～23年に実施した「コンセントがあればどこでも舞台」(劇場版舞台技術講座に対して、日常の空間にコンパクトな機材による照明や音響効果を加えて表現の可能性を広げるもの)の参加者による団体「スタ☆ネットワーク」の技術勉強会及び公益的活動を応援し、稽古場や機材の貸出などを行う。					対象者:10人
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
64	地下鉄駅コンサート	9/23～24,29～ 30,10/1	地下鉄駅構内	1,363	1,363	市負担金 1,363
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。					
⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
65	仙台市文化プログラム公募・共催事業	通年	—	9,030	9,030	市負担金 9,030
	オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー(文化遺産)」として永く継承されていくことを目的に、一般から公募した企画提案から選考により採択された事業を、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施する。					

⑧育成・普及事業

主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供する。

66	芸術家派遣事業	5月～2月	各学校・地域	0	0	
『仙台市芸術家派遣事業実行委員会』が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として140箇所へ派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は1,700万円程度を見込んでいる。						
67	学校・地域アウトリーチ事業	通年	各学校・地域	1,500	1,200	その他 1,200
子どもたちや地域住民等がアートと触れあう機会を、有償で提供するアーティスト派遣事業。提供先のニーズに合わせて、オーダーメイドでアーティストの選定・プログラム開発を行う。当年度は従来の近隣市町村の学校・公共施設・市内商店街等での実施を予定。						
68	文学館で言葉を楽しもう	通年	各学校・地域	305	0	
小学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のこぼれを耳で聞いたりして味わい楽しむワークショップや、市内のお話し会活動をしている団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらおうようなカリキュラムを実践。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。						

⑨出版及び作品収集事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。

69	仙台文学館刊行物販売事業	通年	—	0	60	刊行物販売 60
『仙台北のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドンスズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。						
70	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	42	刊行物販売 42
『仙台劇のまち戯曲賞』大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,080円(税別)。販売作品『開光る』『ドドミノ』『ミチユキキキサラギ』はだか道。						
71	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	1	7	刊行物販売 7
事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットを継続販売する。						

⑩広報事業等

72	広報事業	通年	—	5,120	4,897	市補助金 4,897
文化情報誌『季刊まちりよく』の発行(年4回)を継続する。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス想定件数:年70,000件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行う。						
73	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,160	1,500	友の会会費 1,500
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月例通信『市民ぶんかレター』による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等。年会費1,000円。会員:約1,500人						
74	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	3,240	0	
事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

平成31年に開催する第7回仙台国際音楽コンクールの準備を進める。

75	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	7,815	7,815	市負担金 7,815
コンクール事務局の運営を行う。						
76	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	2,825	2,825	市負担金 2,825
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。						
77	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,546	1,546	市負担金 1,546
第7回コンクール審査委員を確定する。第7回実施要項を確定し、発表する。						

78	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	9,198	9,198	市負担金 9,198
公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクールの広報活動を行う。 第7回コンクール出場者募集に係る広報活動、印刷物作成等を行う。						
79	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	2,101	2,101	市負担金 2,101
第7回コンクールに向けて研修等を行うボランティア活動の事務局業務を行う。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート: 関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート: ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート: コンクール期間中の活動の企画や勉強会等 ⑤ホームステイ受入れ: 意見交換会 ⑥ボランティアプロジェクトチーム: 第6回コンクール入賞者によるコンサートの企画運営						
80	第6回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	21,110	21,110	市負担金 17,218 入場料・出演料等 3,892
第6回コンクール優勝者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作及び販売を行う。また、平成30年度、31年度に実施する副賞の準備を行う。						
81	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	2,884	2,884	市負担金 2,884
・仙台の音楽文化振興を目的に、第6回コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラが共演する機会を設けるとともに、小中学校訪問コンサートを開催する。 ・仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、街かどコンサートを開催する。						

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

82	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台他	24,239	24,239	市負担金 15,191 受講料・入場料等 9,048
<ul style="list-style-type: none"> ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・8月に夏合宿を行う。 ・10月に「定期演奏会」を開催する。 ・3月に「スプリングコンサート」を開催する。 						
						団員定員: 122人

(4)演劇系練習施設運営事業

83	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	26,976	26,976	市補助金 19,382 利用料等 7,594
「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。						
						収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設管理運営事業

84	せんだい3.11メモリアル交流館管理運営	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	55,050	55,050	市受託料 55,050
地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。仙台市の東日本大震災メモリアル施設として位置づけられた当施設において、職員常駐の枠組みにより、荒井地区をはじめ様々な住民・市民の交流の場としての親しみやすい運営に努めるとともに、以下の事業を幅広く展開する。加えて、常設展を含めた館全体の管理運営業務についても一定の役割を担う。 ① 企画展: 年4回予定 ② 交流事業 1. 語り部事業 2. 東部地域回遊ルート作成 3. キャンドルナイト 4. 「伝える学校」後継事業 5. 情報発信事業						

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

85	市制施行128周年記念コンサート	7/3	イズミティ21	4,320	4,320	市受託料 4,320
仙台市の市制施行記念式典の一環として開催される仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには、第6回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第2位のエヴァン・ウォンさんを迎える。						
86	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	14,950	14,950	市受託料 14,950
大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。						

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位;千円)

①仙台文学館普及啓発事業

87	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	719	719	市補助金 411 販売手数料 308
<p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。</p> <p>①特別展「イラストレーター・安西水丸展」関連：俳句にも造詣が深く、吟行会などを行っていた安西水丸の作品と活動を知る吟行会&トークイベントや、市民から寄せられた、安西水丸作品の思い出を展示期間中掲示する市民参加型イベントを開催。</p> <p>②「こども文学館 えほんのひろば」関連：市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、手作り教室を開催する。</p> <p>③特別展「上橋菜穂子 精霊の守り人」関連：関係者による講演会、作品の朗読イベントなどを開催する。</p> <p>④企画展「井上ひさし資料特集展Vol.7」関連：展示室内でのリーディングイベント、読書会などを実施する。</p>						
88	ことばの祭典ー短歌・俳句・川柳への誘い	6/24	仙台文学館	464	464	市補助金 464
<p>短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。</p>						
89	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,673	2,673	市補助金 43 受講料 2,630
<p>文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。</p> <p>①小池光短歌講座：館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催を予定。</p> <p>②仙台文学館ゼミナール：近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催する。</p> <p>③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど：広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベント。</p> <p>④文芸講演会：活躍中の作家による講演会や対談。仙台ゆかりの作家をはじめ、全国規模で活躍する作家による講演なども開催する。</p>						
90	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	155	155	市補助金 155
<p>県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを作成する。</p>						
91	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
<p>市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。</p>						
92	情報誌の発行	通年	—	1,186	1,186	市補助金 1,186
<p>文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。</p>						
93	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
<p>絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さな子どもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する。</p>						
94	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
<p>両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施する。</p>						
95	出版物等の販売	通年	—	255	255	市補助金 41 刊行物販売 214
<p>小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。</p>						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

96	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	30,000	30,000	市補助金 30,000
優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。当年度はアーティストによるアーティスト・イン・レジデンスや地域における拠点づくりなどの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。						
97	調査と表明(1)	通年	メディアテーク	14,424	14,424	市補助金 5,574 入場料 1,050 助成金 7,800
国内外で活躍するアーティスト(芸術家)や地域の市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題をリサーチ(調査)し、その成果を展覧会などによって発表(表明)することで、再び地域へ還元していく事業。 ①展覧会事業「着地する技術 6年目の東北から考える美術家たち(仮称)」:もとは同じ意味であった「技術」と「藝術」。近代化の過程で意味を分かち、どちらも日常生活とは距離を持って存在しているかのようなこれらとの関係について、改めて表現をとおして問い直す。東北で表現活動を行う美術家、あるいは震災以降の東北に関心を寄せる気鋭の美術家がメディアテークの特性を活かし、それぞれの視点から表す。参加作家は、青野文昭、飯山由貴、井上亜美、高嶺格、門馬美喜の5人。 ②アーティストリサーチ:アーティストを招聘し、公募型のアートワークショップを行うなど、地域に滞在しながら、その地の歴史や社会的課題を調査研究し成果を発表する。平成28年度から継続してアーティストグループ(ヒスロム)を招聘し、粘り強くテーマを掘りさげ、その成果を展覧会として表現するまでを一連の事業とする。地域の人材との交流やトークイベント、ワークショップなどによって調査の過程そのものを積極的に公開していくなかで、交流の手法を新たに開発していく。						
98	調査と表明(2)	通年	メディアテーク	5,186	5,186	市補助金 2,486 助成金 2,700
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意する。 ①スタジオ情報発信:「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議を中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性化していくことを目指すとともに、さまざまなアートやメディアにまつわる文化活動への支援を行う。また、それらの「スタジオ協働事業」の成果をウェブサイトやさまざまな機会を通じ、広く発信する。さらに、仙台/東北における芸術文化の現況を広く共有するツールとして、機関誌「ミルフィユ」を発行し、市民のみならず広く首都圏他からの関心を誘導する。 ②地域文化アーカイブ:市民の自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組みとする。成果物は、メディアテークに保存され、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信など、広く市民に活用される「財」となる。また、それらをもとにした「ラウンジ展示」(民話、どこコレ、活版印刷等)を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより深く深い市民の関心を促す。これらの取り組みは、国内に例のない地域文化にまつわる映像の蓄積=デジタル・アーカイブを形成し、将来においての財産となるよう構築する。						
99	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	5,016	5,016	市補助金 4,616 刊行物等販売 400
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性化を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 ①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行う。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行う。 ②館長発信事業:発信力ある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトーク等の開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。その際、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。 ③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのフェスティバルを開催、さまざまな活動団体を顕在化するとともにより広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。						

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

100	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	67,291	67,291	市指定管理料 67,291
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。						

101	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	277	277	市指定管理料 277
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。						

①特別展・企画展及び関連事業

102	企画展「日々の装いと履物」	4/29～7/2	歴史民俗資料館	255	255	市指定管理料 255
衣服や履物は、日常生活や生業、信仰、芸能など、使用する場や用途でさまざまなものが作り出されてきました。衣服の材料は、カラムシや麻、フジなどの植物および樹皮などの繊維や、あるいは木綿や絹などで作られました。また履物の材料はギリ、スギ、カシ、ホウ、あるいは稲わら、麻などでも作られました。企画展では、仕事着や日常着などの衣服や、下駄、草鞋、草履などの履物を紹介し、仙台地方の衣服や履物の生活文化について考えます。						
103	企画展「なつかし仙台4～いつか見た街・人・暮らし～」	7/15～11/5	歴史民俗資料館	1,500	1,500	市指定管理料 1,500
仙台地方における街・人・暮らしを中心に、明治時代、大正時代、昭和初め、戦時中、戦後、現代における写真、絵葉書、写真帖などの資料を紹介し、特に明治・大正の写真帖、市民の皆様から提供された戦前・戦後の家族アルバム、個人写真などを通して、仙台の街並や人々の生活の移り変わりを明らかにしていきます。またNPO法人20世紀アーカイブ仙台と連携し、戦後、現代の新たな映像資料、音声資料、写真資料を公開し、街・人・暮らしの移り変わりの意味について考えていきます。						
104	特別展「Winter Life in Sendai ～仙台の冬のくらし～」	11/18～4/15	歴史民俗資料館	1,739	1,739	市指定管理料 1,739
現在のような冬用の衣類や暖房器具がない時代、人々はさまざまな工夫を凝らしながら冬の寒さをしのいでいました。この展示では厳冬期でも重ね着をして手元に火鉢を置いて暖をとって過ごしていた、かつての冬の過ごし方を紹介し、生活の工夫と知恵を考えます。また、冬季オリンピックの開催に関連して、スキーやスケートなど、冬に楽しむスポーツについてもふれ、冬のくらしを多面的に紹介します。						
105	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	96	96	市指定管理料 96
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。</p> <p>②子ども講座(7月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/7までの8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/21):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。</p>						
106	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	146	146	市指定管理料 146
資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習に資する。						
107	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,919	1,919	市指定管理料 1,919
資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。						
108	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	704	704	市指定管理料 704
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。						
109	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼挽きなどを体験する。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。						

(2)仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

110	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	84,938	84,938	市指定管理料 84,938
旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。						
111	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,872	13,872	市指定管理料13,872
地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森(植生復元)の野外展示を総合的に行う。						

①特別展・企画展

112	企画展「仙台の遺跡① 陸奥の「国府」郡山遺跡と周辺の遺跡」	4/14～6/18	富沢遺跡保存館	61	61	市指定管理料 61
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は国指定史跡である郡山遺跡を中心に取り上げ、関連する長町駅東遺跡や西台畑遺跡等と共に発掘調査で出土した資料を紹介する。					
113	特別企画展「森と人の考古学」(仮)	7/21～9/24	富沢遺跡保存館	2,218	2,218	市指定管理料 2,218
	低湿地に残された遺跡が発掘調査されることによって、旧石器時代以降の日本列島にどのような森林が広がっていたのかが判明してきた。まだまだ限られた例ではあるものの、本展では東日本各地でみつかった森の跡とそこに残されていた人間活動について、旧石器時代から縄文時代を中心に紹介し、当館が保存する森林跡と比較しながら展示を行う。					
114	企画展「陸奥国分寺跡」(仮)	10/20～12/17	富沢遺跡保存館	122	122	市指定管理料 122
	東北大学所蔵の陸奥国分寺の発掘調査によって出土した資料を中心に、仙台市所蔵の関連資料やパネルの展示を通して市民の理解を深める。					
115	企画展「地底の森ミュージアム2017」・「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2017」作品展	1/16～3/11	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動等を紹介するとともに、フォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2017の作品展の展示を行う。					
116	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,107	1,107	市指定管理料 1,107
	<p>①地底の森フェスタ2017(10/9):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(11/18、1/20):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会をする。また、ゴールデンウィークや特別企画展期間中、小中学校の秋休み期間中にはモノづくり体験の要素を取り入れて、石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施し、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を活かした活動を行う。毎月2回程度実施。</p> <p>④利用学習事業(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はWeb公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による15名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設ける。成果は活動報告書にまとめる。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。</p> <p>⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。</p>					
117	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	190	190	市指定管理料 190
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
118	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,484	1,484	市指定管理料 1,484
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					
119	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。					
120	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	345	345	市指定管理料 345
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。					
121	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	188	188	市指定管理料 188
	平成30年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。					
②地域との連携事業						
122	運営懇談会	7月、2月	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を開催する。また、学校や地域との連携事業を模索する場とする。					

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

123	縄文まつり・縄文コンサート	5/14,7/17,10/29,2/4	縄文の森広場	1,084	1,084	市指定管理料1,084
季節ごとに開催する自由参加イベント。計4回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施する。						
124	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	171	171	市指定管理料 171
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容を予定。 ①「北の縄文人」(12/7) ②「南の縄文人」(2/21) ③「南と北をつなぐ縄文用具製品」(2/18)						
125	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	41,772	41,772	市指定管理料41,772
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。						
126	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,101	16,101	市指定管理料 16,101
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。						
127	コーナー展示「仙山交流」	通年	縄文の森広場	49	49	市指定管理料 49
仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、仙台・山形の遺跡を中心として紹介する。 ①「仙山交流in仙台」(4/21～6/11) ②「仙山交流in山形」(7/15～10/22) ③「仙山交流in七ヶ浜」(12/1～2/4) ④「仙山交流in仙台」(3/16～6/10)						
128	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,002	2,002	市指定管理料 2,002
①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座:「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント:春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。						
129	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	280	280	市指定管理料 280
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。						
①学校との連携事業						
130	学校教育との連携	8月、10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
学校教育との連携を促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会を実施。10～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。						
131	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,529	2,529	市指定管理料 2,529
小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行う。学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。						
②地域との連携事業						
132	運営懇談会	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。						
133	縄文の森広場縄文畑の活用	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
縄文畑に展示の一環として育てているソバ・アワ・キビ・ヒエの播種から調理までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図る。また、縄文時代に関する生活体験などを行う。						

③調査研究事業						
134	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	338	338	市指定管理料 338
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。						
135	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。						
136	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。						
137	平成30年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	22	22	市指定管理料 22
平成30年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。						
138	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

139	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	185,750	185,750	市指定管理料 185,750
文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。						
140	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。						

①特別展・企画展

141	特別展「イラストレーター 安西水丸展」	4/28～6/25	仙台文学館	2,126	2,126	市指定管理料 2,126
2014年に急逝したイラストレーター・安西水丸の作品を展示。安西は漫画・絵本・小説やエッセイ執筆、翻訳など、枠にとらわれることなく様々な方面でその才能を発揮している。本展では、イラストレーションの作品を中心に、安西の幼少期から晩年にいたるまでの足跡を辿る。また、公私に渡り親しい間柄であった、嵐山光三郎、村上春樹、和田誠らとの仕事も紹介。70年代から第一線で活躍し続け、時代を駆け抜けた安西水丸の生涯と作品の軌跡を振り返るものとする。						
142	夏休み企画「こども文学館えほんのひろば とよたかずひこの絵本世界」	7/15～8/27	仙台文学館	3,157	3,157	市指定管理料 3,157
『どんどこももんちゃん』シリーズや『ワニのバルボンさん』シリーズなど、長年にわたり、子どもたちに愛される絵本を描きつづけている、仙台出身の絵本作家・とよたかずひこの原画展を開催。繰り返しの読み聞かせを意識して書かれたことばのフレーズと、明るい色調によって描かれた絵本は、子どもたちはもちろん、図書館や読み聞かせの団体からも絶大な支持を得て、ロングセラーとなっている。展示ではこれら絵本の創作の過程と、子どもたちの感性に響く作品世界を紹介。会期中には作家によるギャラリートークや、絵本作品にちなんだワークショップも開催し、絵本を愛するすべての大人と子どもに向けた企画とする。						
143	特別展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」	9/16～11/26	仙台文学館	5,580	5,580	市指定管理料 5,580
『精霊の守り人』『獣の奏者』『鹿の王』などのベストセラーを次々と発表し、2014年にこどもの本における最高の賞である国際アンデルセン賞作家賞を受賞した、上橋菜穂子の作品世界を展示する。多様な価値観や、文化的背景の異なる人々が織りなす世界をあざやかに描きあげる作品は、世界的に高い評価を得て、幅広い年齢層の読者から熱い支持を集めている。本展ではドラマ化された代表作〈精霊の守り人〉シリーズに描かれる多文化共生を軸として、その壮大な物語世界と、作家上橋菜穂子の卓越した創造力の源泉に迫る。TVドラマ資料やアニメ、漫画化された作品の関係資料も展示。ファンタジーや児童文学という枠をさらに超えた圧巻の物語世界のすばらしさを味わってもらうことを目指す。						
144	企画展「井上ひさし資料特集展vol.7」	12/16～4/8	仙台文学館	2,397	2,397	市指定管理料 2,397
2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から時宜にかなった作品の資料を選び展示する。膨大な創作メモやプロットから、作品の創作過程をたどる。また川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料なども紹介する。						

145	新春口ピ一展「100万人の年賀状展」	1/10～2/12	仙台文学館	233	233	市指定管理料 233
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
146	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,360	3,360	市指定管理料 3,360
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。					
147	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	433	433	市指定管理料 433
	平成30年春の特別展の準備を進める。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介していく。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

148	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	351,031	351,031	市指定管理料 351,031
	<p>平成29年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その1年目となる当年度において次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化する。</p> <p>(2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する確かなアドバイスをを行い利用者の増加を目指す。</p> <p>(3)施設利用に関すること及び芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化する。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、施設の利用促進事業や創造的な実演芸術などの各種事業を行う。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行うなど不断の業務改善に努める。</p> <p>(6)震災や外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制を構築する。また、環境に配慮した各種施策を行う。</p> <p>(7)大規模改修についてはこれまでの知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに設備更新や調整業務を行う。</p> <p>(8)楽都仙台の拠点施設として楽都事業の運営サポートを行う。</p>					収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

149	仙台市泉文化創造センター(イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	131,035	131,035	市指定管理料 131,035
	<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の3年目として、次のとおり施設運営を行う。</p> <p>(1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。</p> <p>(2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。</p> <p>(3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。</p> <p>(4)施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。</p> <p>(5)施設を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席等を行う。</p>					収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

150	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	605,378	605,378	市指定管理料 605,378
	<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図っていく。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては、「考えるテーブル」などの協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。</p>					収益事業を含む
151	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,621	9,621	市指定管理料 9,621
	<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。</p>					